



ひので映画大使最新版

第37回映画大使「図書館戦争」

期 日 平成25年4月27日(土)
 場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

【作品紹介】

ベストセラー作家・有川浩の代表作「図書館戦争」が遂に実写化され、岡田准一と榮倉奈々のW主演でスクリーンに登場します！
 国家によるメディアの検閲が正当化された近未来の日本を舞台に、検閲に対抗すべく図書館側から生まれた自衛組織「図書隊」の自由を守る闘いと、成長と、恋を描いた話題作です！！



(C) "Library Wars" Movie Project

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

▶ 映画大使の「第一声！」

「自由」と「権力」について考えさせられた

アクションシーンは迫力満点！

岡田准一さんと榮倉奈々さんの演技が良かった！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

テンポがよかったですね。作品のテーマを追求していくと、リアリティがどうなのか、という事になるのですが、それよりも、主演の榮倉奈々さんの演技や、岡田准一さんのアクションが良く、見た目がエンターテインメントとしてしっかりしていて、面白かったです。テーマを考えると、原発事故以降、マスコミが言っている事ってどこまで本当なのだろうとか、そういう事と重ねて観てしまう所があって、劇中に、「みんなの無関心がこういう世界にしてしまった」というのがありました。チェルノブイリなどもそうですが、数年経って影響が出る場合もあるので、これから起こる何かに備えて、本当の情報を見極めていかないといけないのだ、と思いましたね。

Bさん

小説からアニメになり、実写化されたとの事ですが、結構テンポがよくて、面白かったです。アクションシーンは少しアニメっぽいというか、実際ではありえないような所もありましたが、それはそれで楽しめました。実際の世の中も、現代人の無関心さには問題があります。未来の子供達にしっかりした社会を残していくためにも、考えないといけない問題だと思います。

Cさん

今、こうやって映画を観たり、DVDを借りたり、図書館に行ったりという私達にとって普通の事が、ありがたい事なんだって思いました。頭で考える思想の自由とかを、文章にしたら、今の日本では守られているけど、戦争中はタブーな言葉とかがあって、現代の戦争とは無縁の日本で描くからこそ、リアルに見えました。岡田准一さんのアクションも迫力があってカッコ良かったです。観ていてスカッとしました！

Dさん

昔、「華氏451度」という本を読んだことがあって、これも、本を所持し、読む事を禁じたりした世界が描かれていました。主人公が本を守っていくのですが、「図書館戦争」の作者も多分この作品に影響を受けたのではないのでしょうか。映画として、今回の作品は面白かったです。セリフなどが、嫌味じゃないですね。「表現の自由」や「思想の自由」をあまり強調していないのに、でも終わった後には大事なのだって思ったし、また、押し付けがましくもなく、いつの間にか伝えている感じで、とても後味のいい作品でした。

Eさん

スピード感があって良かったですね。「無関心」、「自分には関係ない」、「横並びの教育」など、様々な問題についてしっかり描かれていたと思います。また、「図書隊」での、一つの目的のために皆が団体生活をし、絆を深めていく様子は、いいなって思いました。

Fさん

戦争中には言論統制などがありましたが、今でも私達が肌でそんなに感じない形での統制があって、資料を出してもらえないなど、そういう事が起きているにも関わらず、私達が気付かないように仕向けられているという問題があります。人々が無関心というのもあるのでしょうか。今作の制作にメディアが関わっていますが、過去の経験や、現在の危機感などが、この作品を生んだのかなと感じました。アクションやロマンスを絡め、楽しめる中で、きちんと訴えてくれたように思います。

Gさん

「図書館戦争」と聞いた時に、私はもう少しファンタジーの要素が強いのかなと思っていました。情報があふれている現代の中で、私達はそれらを取捨選択して、色々判断して生きていますが、この作品を観て、何が真で、何が偽か、何が自分にとって必要か、というのをもう少し考えなければいけないのかな、と感じました。また、取捨選択すると同時に、守るべきもの、大切にしていかなければならないものもある、という事にも気付きました。映画は色々な事を教えてくれるし、他の方の意見を聞くと色々な観点があって、その作品をさらに掘り下げて考える事が出来て、いいですね。

Hさん

最初のほのぼのとした所から、徐々に戦争へとシーンが変わっていき、激しいアクションなど、ハラハラドキドキして観る事が出来ました。「図書隊」の隊員達は、本を守っていましたが、物を一つ一つ作るにも、色々な人達の想いや気持ちがかもっているの、物を大切にしなければいけないと、改めて思いました。

📌 作品の内容(印象に残ったシーンなど)

- ・アクション要素が少し強すぎたかな？でも迫力満点でした！
- ・現実とはかけ離れた世界ですが、エンターテイメントとしてはピッタリの舞台でしたね。
- ・「多摩」や「日野」、「立川」が作品の舞台でしたね(実際は、山梨や茨城、北九州の図書館などで撮影されました)。
- ・人物のアップが多くて効果的でした。「引き」で撮ったらまた違う印象だったでしょうね。
- ・表現や言論の自由は、先人が命をかけて勝ち取ったものだから、もっと大切にしないといけないですね。
- ・戦時下にあった統制などを知らない世代から見ると、今実際にそういう時代にまたなってしまうたら、具体的に世の中ってこういう風におかしくなってしまうんだ、っていうのをもう少し実感させる部分を描いてもよかったですと思います。
- ・今の日本では、マスコミが扇動している部分もあると思います。
- ・いい情報、悪い情報の判断がきちんと出来るよう、子供には教えていかねばなりませんね。
- ・図書館で戦争が起きているのに、一般の人達は無関心でしたよね。今の世の中を象徴しているようでした。
- ・日本のアクションシーンも世界レベルになりましたね。
- ・これからはもっと図書館に行ってみます！
- ・このように皆で集まって感想を話し合うのは、本当にいいですね！

📌 まとめ

国家によるメディアへの検閲が正当化された、という設定ですが、以前の日本でも憲法で検閲を禁止するまでは、公に行われていた行為でした。確かに行き過ぎた表現を規制(検閲)する事の必要性は感じますが、戦後までは政治権力によるものなど、多くの問題があったのも事実です。この作品はそのような「表現の自由」に対する明らかな「圧力」に対しての闘いが描かれています。映画ですので、エンターテイメントとして描かれていますが、「自由を守る」という、今では当たり前の事が「権力」によって奪われてしまう事の怖さが伝わりました。その中での若者の成長や、恋愛の行方、迫力のアクションなど、ハラハラドキドキの展開も娯楽としてのアクセントとなり、正に誰でも楽しめ、また考えさせられる作品でした。

劇場の大画面で是非、ご覧ください！！

平成25年度・第7期の映画大使がスタートしました。今年度は多くの新規の方に登録いただき、総勢41名の大使が皆様に映画の楽しさ、素晴らしさをお伝えしていきます。このページをご覧になって、「映画館に行ってみようかな・・・！」となっただけであれば嬉しいです。映画大使に登録されていない方も、「どうしても、素晴らしさを伝えたい作品がある！」と思われるなら、是非感想をお聞かせください！

➡ [関連ページ: これまでのひので映画大使](#)

➡ [関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係
電話042-597-0511(内線541)

◀ [前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶

〒190-0192 東京都西多摩郡日の出町平井2780番地 電話 042-597-0511(代表)
Copyright © 2011 Hinode Town All Rights Reserved.

[サイトマップ](#) | [このサイトについて](#)